

高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会

## 第4回委員会（最終）

大規模更新・修繕の実施に伴う課題

# 大規模更新・修繕の実施に伴う課題

課題項目	内容(要点)
社会的な理解を得るための説明責任の履行	・投資の必要性について説明責任を果たすため、広く社会へ説明し、広報する必要がある。
国、地方公共団体等との連携	・国、地方公共団体との情報共有、交通管理者や他の道路管理者との連携が必要である。
社会的影響への配慮	・交通量や利用状況等の路線特性を勘案のうえ、利用者や周辺社会への影響を軽減する方策の検討が重要である。
高速道路機能の更なる向上	・高速道路の機能の向上について検討が必要である。
構造物の劣化抑制対策	・構造物の劣化抑制として、①重量超過車両の走行を抑制する取組 ②重量超過車両の構造物への影響が大きいという社会へのアピールと取締り強化 ③塩害の抑制に資する凍結防止剤やその使用方法など総合的な対策を検討していく必要がある。
技術開発	・新たな技術開発が必要である。(①点検の信頼性向上や効率化のための非破壊検査・機械化・自動化、②劣化予測技術、③モニタリング技術、④耐久性の高い補修材料・工法、⑤工期を短縮する急速施工技術など)
円滑な事業推進	①対策の確実な実施のための体制強化や人材の確保 ②技術者の適正な評価 ③人材育成、研修・資格制度の整備 ④必要な財源の確保 ⑤コストの削減

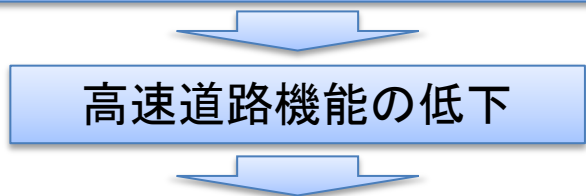
# 《参考》社会的影響の検討

## ■大規模更新・大規模修繕 事業実施に伴う社会的影響

◆工事の実施には、大規模かつ長期間に渡る交通規制が必要。

### 交通規制による影響

- ・周辺の一般道まで含めた長時間に渡る渋滞の発生。
- ・本線車線数減少に伴う通行止リスクの増大。  
(車両故障や軽微な事故が通行止に繋がる)



交通規制による影響を完全に排除することは、不可能であることから影響が大きい路線区間については、可能な限り影響を少なくする対策を検討

◆事業の実施に当たっては、路線特性やネットワークの整備時期などを総合的に判断し事業計画を策定する。

- 交通規制の影響を少なくする路線区間を路線特性より整理  
路線の重要性(通行止の回避)
  - ・空港等の重要施設を結ぶ路線区間
  - ・一般道による迂回の程度
- 渋滞予測による渋滞の程度(ネットワークの整備時期考慮)

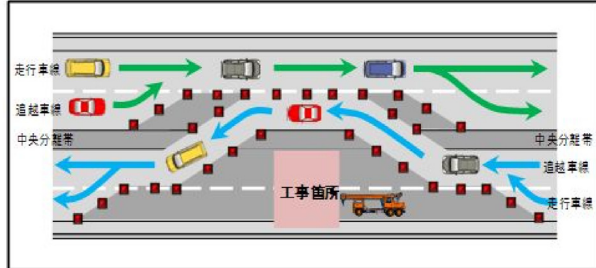
- 渋滞の影響が少ない対策工法の採用
- ネットワークの整備による交通量の転換を考慮した施工時期の検討

※施工時期の検討に当たっては、対象構造物の変状状況を適切に判断

### 対策に必要な交通規制の例

・【床版取替】には、数ヶ月単位での連続対面通行規制が必要

●対面通行規制(片側通行止)



### ネットワーク整備による迂回転換の例

